

鉄道 相互乗り入れ拡大

小田急

3.5割増

京急

地下鉄対応車両

沿線住民つなぎ留め

鉄道会社が他社路線で車両を運行する相互乗り入れを増やしたり、専用車両を投入したりしている。小田急電鉄は3月、東京地下鉄（東京メトロ）に乗り入れる通勤列車を1日当たり3.5割増やし、京浜急行電鉄は地下鉄でも走れる車両を増やす。乗り換えせずに通勤・通学できるネットワークを充実させ沿線住民をつなぎ留めるとともに、観光需要も取り込み、人口減が進む中でも収益基盤を維持する。



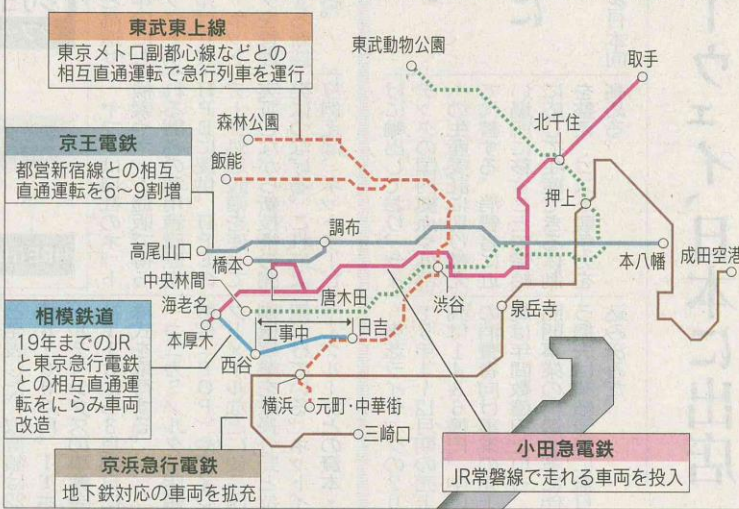
小田急は地下鉄に乗り入れる特急ロマンスカーを1日3本から5本に増やす

東京都と神奈川県を走る小田急は3月26日、東京メトロ千代田線に乗り入

入れる列車の本数を増やす。通勤列車は平日に1日当たり26本増の97本、土休日は28本増の80本にする。千代田線と接続するJR常磐線への小田急

の車両による乗り入れも始める。神奈川県は観光地、箱根と都内を結ぶ特急「ロマンスカー」のうち、東武

相互直通運転をハード・ソフト両面で拡充（首都圏の主な相互直通路線）



ダイヤの乱れ広範囲 乗客に不満

広がる相互直通運転だが、事故などが起きた際にダイヤの乱れが広範囲の路線に広がる弱点も持つ。国土交通省によると、首都圏51路線のうち3割にあたる16路線が平日の3分の2以上で遅延証明書を発行している。乗客の不満も高まるだけに、ダイヤの乱れをどう回復させるかが課題だ。

東京メトロ 立体交差で対策

線と副都心線、西武有楽町線・池袋線が乗り入れる。現在の平面交差だとダイヤの乱れの際に駅の手前で信号が変わるのを待たなければならぬ。立体交差だと駅までは進むことができるため、タクシーなどの交通手段を選ぶことができる。東日本旅客鉄道（JR東日本）はスマートフォン向けアプリで、列車がどこを走っているかを表示する情報を提供している。列車の遅延が発生したときに、後続列車がどこを走っているか確認が可能だ。

根と都内を結ぶ特急「ロマンスカー」のうち、東武も1日3本から5本に増やす。住民の利便性を高めることも、都内から箱根などに向かう観光客の利用も促す。近畿日本鉄道は3月19日、平日夜阪神電気鉄道に乗り入れる列車を増やす。一足先に京王電鉄は昨秋、都営地下鉄の新宿線に乗り入れる京王線の平日の本数を77本増の205本に、土休日は84本増の182本にしている。各社が相互乗り入れを拡充するのは、住民の利便性を高めるためだ。2015年の国勢調査で総人口は初めて減少。人口が増えた首都圏1都3県なども将来的には減少に転じるとみられている。訪日外国人客を含めた旅行客を取り込む狙いもある。小田急は箱根、武蔵野線は埼玉・群馬・栃木とつなぐ観光地への誘客を進めるため、ロマンスカーを増発や急行運行に踏み切る。乗車人数が増える効果が出ていることも大きい。東急は13年に東京メトロ副都心線などと相互直通運転を始めたところ、14年3月期の輸送人員が前の期に比べて27